

平成23年度「英語活動」教育プログラム事業報告

(自平成23年4月1日～至平成24年3月31日)

平成23年度数値目標

1. 実施校数	年間 35校
2. 講義時間数	年間 1,800時間

1. 数値目標からの乖離

年度別実績推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	目標・予算	23年度実績	△+
実施校数(校)	29	29	31	35	35	32	△3
講義時間数(時間)	1,356	1,621	1,660	1,654	1,800	1,514	△286
講師料(千円)	8,223	9,828	10,279	10,114	11,700	9,196	△2,504

支援状況 (16区市32校 新規校7校)

支援校数	市区名
4校支援	大田区
3校支援	中野区・多摩市・八王子市
2校支援	墨田区・世田谷区・江東区・足立区 練馬区・東村山市・稲城市
1校支援	新宿区・板橋区・立川市・東久留米市 調布市

東日本大震災の平成23年度英語活動プログラムへの影響は甚大で、年度初めの留学生の一時帰国、大学の授業開始遅延などの要因により、数値目標を下回る結果となった。

2. 「英語活動」教育プログラムの充実化

年度途中での数値改善は非常に難しい英語活動においては、留学生講師による授業の質の維持・向上、および経費削減に努めることに専心した一年であったと言える。その結果、実施32校全てから平成24年度継続支援依頼を受けることができた。

1 英語活動アドバイザーによる現場技術指導の強化および事務局との連携強化

<留学生講師の魅力>

- 1) 優れた人間性
- 2) 異文化の力
- 3) 英語力
- 4) 優れたコミュニケーション力

各学校からの留学生講師の評価として挙げられる以上4つの「魅力」をさらに引き出すため、英語活動アドバイザー（太田美智彦氏・宇津木悦子氏。両名とも中学校英語教育経験者）による現場指導を年間最低2回確保、さらに新人留学生の実習指導も事務局と連携しながらその全てを現場で行った。

また英語活動アドバイザーと事務局の連携を強化すべく、2ヶ月に一度のミーティングを定例化した。

2 要望への柔軟な対応

5-6年生の「英語活動」必修化に伴い、各自治体教育委員会から派遣される英語講師による講義数が増加した。このことにより、当協会へは4年生以下の学年の指導を希望する学校が増加傾向にある。今年度ホームページにも4年生以下の学年でも対応が可能であることを明記し、前年度よりさらに柔軟に対応した。

また学校の要望によって、年度の最後の授業においてキャリア教育に繋がる「異文化」の授業も行った。

3 事務局のサービス力の維持・強化

必要に応じ、異文化担当（富山常務理事・堀内シニアアドバイザー）の助言を得ながら留学生講師の異なる文化的背景から誤解が生じないように、きめ細かく各学校と連絡をとった。

4 経費削減

留学生講師とのやりとりをすべて電子メール化することにより、郵便通信費の削減をすることができた。

3. 学校からの評価

平成23年12月、実施校すべてに対しアンケート調査を行った。その結果、「授業前に打合せをする時間をなかなか取ることができない」という問題が明らかになったが、留学生講師は非常に高い評価を得ていることがわかった。

4. 平成24年度の体制

平成24年度は新人講師26名を登録（うち6名が異文化プログラムとの兼任講師）、67名体制。引き続き無償にて小学校の英語活動を支援。

平成24年4月末現在、35校の支援が既に決定しており、4月から6月にかけて順次活動をスタートさせていく。

<事務局>

常勤事務職員 1名 （事業計画・予算管理・学校との折衝・講師指導・対外活動）

非常勤事務職員 1名 （事務および経理処理・学校および講師との連絡業務）

英語活動アドバイザー 2名（中学校英語教師経験者） 形態： 業務委託契約

以上